

2010年2月17日 第4回情報交換会 ご挨拶

テクノロジストコンサルティング株式会社  
代表取締役社長 主席テクノロジスト  
黒岩 暎一

テクノロジストの黒岩でございます。

本日は、ご多忙にもかかわらず第4回情報交換会フォローアップ研修に多数、ご出席をいただきありがとうございます。

テクノロジスト育成塾は、3年前より6ヶ月ごとのコースとして開始し、幸い「他にはない欲しかった研修」とご評価を頂き、現在、受講者累計150名、累計参加企業50社を超えるまでになっております。

そして、本日は、卒業生50名、関係各社より60名のご出席を得ております。

テクノロジスト育成塾の育成コンセプトは「経営とシステム」のための一流の人材育成です。

その具体的な人材像は、

<ユーザ企業では>

- 一流のIT企画人材（BA）、社内システムコンサルタントです。

<情報サービス業では>

- 一流のコンサルティング営業人材、システムコンサルタントです。

一流とは経営と会話をしてシステム戦略の提言、推進、効果の刈り取りができる人材と定義しています。
---

当社の研修カリキュラムの特徴は、5点挙げられます。

- 1 講師陣の経験したことを、日常で鍛練すべきガイドブック「体・技・心」として提供していること。
- 2 システムの現場ではなじみが無かったドラッカーの『マネジメント』のエッセンスを、“自社を自分の言葉で語る”ことや“自社の事業を自分の言葉で説明する”ために取り入れていること。
- 3 一流人材像として経営コンサルタント会社のマッキンゼーのマービンバウアーを目標として紹介していること。
- 4 そして、毎回の講義を踏まえて、十数名の受講生同士がディスカッションし、情報交換しながら磨きあうこと。
- 5 育成塾の卒業後も交流会で磨き会うことを継続できるようにしている。(本日の会)

私は長年、システムコンサルタントとして、多数の経営者からシステムについての相談を受けてきたわけですが、この間、気がついたことは、経営者はほとんど例外なくドラッカーを読んでいるし、その影響をうけていることです。

その読み方もドラッカーの言葉に魅せられて線を引きながら、のめり込み自分のものにする読み方です。そして自身の経営の考え方の心棒にしていることに気がきました。

私も真似をして著作に触れてみると「これはシステムに携わる技術者やすべてのヒトの基本にすべきことが説かれている」と感激しました。

それ以来、私の座右の本となり、今も読み続けて、私の心棒になり、育成塾のコンセプト「経営とシステム」の心棒でもあり、現在の社名のテクノロジストもドラッカーの言葉からつかわせてもらいました。

奇しくも昨年の11月19日はドラッカー生誕100年の記念日でした。

この節目に当たり、何かをせねばと「ドラッカーの著作のほとんどの日本語訳をおこない、また、ドラッカーの死去後、ドラッカー学会を立ち上げるなどされてその思想を日本へ普及されておられる上田先生にこの情報交換会での特別講義をお願いできないか」と考えました。私がドラッカー学会員であることをいいことに、上田先生にお願いしましたところ、快諾を頂き本日実現の運びとなりました。

ご出席の方々の心に響く、節目となるお話が聴けると大変に嬉しく思っております。

この場を借りて御礼申し上げます。

また昨年続き本日の会をこのホールで開催するに当たり、アサヒビールの本山専務、他の方々に大変にご尽力をいただきました。この場を借りまして御礼申し上げます。(ありがとうございました)。

前回好評だったアサヒビールとカゴメさんの共同開発商品の「トマーテ」を本日もご用意いただいています。初めての方は是非、試されることお進め致します。

さて、今宵は、「不景気です」、「さっぱりです」は禁句にして、「ちょっと高い目標と少しばかりの倫理を持ち続ければ、成長軌道にのるし、道を踏み外さないはずだ」という言葉を信じて、愉しく、有意義な情報交換会にさせていただきますようお願い致します、私のご挨拶とさせていただきます。

(どうもありがとうございます。)

以上